

レビ記23章15－22節 「五旬節の祝福」

1A 収穫の祭り

1B 律法の授与

2B 新しい契約

3B 聖靈降臨

2A 二個の種ありパン

1B 罪ある体

2B 近づけられた者たち

本文

私たちは、4月20日に復活祭を祝いましたが、聖書にはその日から七週数えて、その翌日を五旬節としてお祝いしています。英語ではペンテコステであります。今朝は、この七週の祭りとも言われる五旬節から、聖靈の豊かな働きについて学びたいと思っています。レビ記23章15節から20節まで読んでみたいと思います。

15 あなたがたは、安息日の翌日から、すなわち奉獻物の束を持って來た日から、満七週間が終わるまでを数える。16 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を主にささげなければならない。17 あなたがたの住まいから、奉獻物としてパン…主への初穂として、十分のニエバの小麦粉にパン種を入れて焼かれるもの…二個を持って來なければならない。18 そのパンといっしょに、主への全焼のいけにえとして、一歳の傷のない雄の子羊七頭、若い雄牛一頭、雄羊二頭、また、主へのなだめのかおりの、火によるささげ物として、彼らの穀物のささげ物と注ぎのささげ物とをささげる。19 また、雄やぎ一頭を、罪のためのいけにえとし、一歳の雄の子羊二頭を、和解のいけにえとする。20 祭司は、これら二頭の雄の子羊を、初穂のパンといっしょに、奉獻物として主に向かって揺り動かす。これらは主の聖なるものであり、祭司のものとなる。21 その日、あなたがたは聖なる会合を召集する。それはあなたがたのためである。どんな労働の仕事もしてはならない。これはあなたがたがどこに住んでいても、代々守るべき永遠のおきてである。22 あなたがたの土地の収穫を刈り入れるとき、あなたは刈るときに、畠の隅まで刈ってはならない。あなたの収穫の落ち穂も集めてはならない。貧しい者と在留異国人のために、それらを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。」

1A 収穫の祭り

私たちは、一年の周期を経ることによって自分の生活のリズムを保つことができます。また、それぞれの国や民族は、例年の祭りによって自分たちの生きている世界観にもしています。日本であれば、仏教と神道の死生観の中で生きているのですが、それは正月から始まり、彼岸、盆踊りなどがありますね。イスラエルの民に対して、まことの神、天地を創造された方は、ご自分のキリ

ストを知るための祭りを七つ置かれ、その中の三つを三大祭りとされました。過越の祭り、五旬節、そして仮庵の祭りです。その三つはそれぞれ、収穫祭であります。過越の祭りの三日後に初穂の祭りがありますが、それは大麦の初穂を主なる神に捧げます。そして五旬節では、小麥の収穫の初穂を捧げるのです。これが春の祭りで、仮庵の祭りは秋の祭りです。その他の作物の収穫を主に捧げます。

イスラエルの地において、天から雨が降り土地を潤すことは、当たり前のことではありませんでした。雨量が少ないので、自分たちの力ではどうすることもできない領域がありました。カナンの人たちは、バアルを信じていましたが、イスラエルの民はまことの神が、その地を潤すことを信じていったのです。このようにして、主が自分たちの畑を育ててくださるという意識が持たされていました。

そこで私たちが五旬節を考える時に、思い出さなければいけないことは、私たち自身が神の畑であるということです。「私(パウロ)が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。(1コリント 3:6-7)」私たちは、どんなこととしても、神が育てないものを作ることはできません。主がなされることに、御靈がここで働くことによって、成長させることができると思っているのです。そこでつまずき、何もできていないことを知りがっかりします。しかし、自分の意思に関わらず、主がなされている業があります。主が促す働きがあり、それに耳を傾けます。そこに見えてくる神の麗しい働き、美しい庭園があります。この世界に踏みとどまっているかどうかが、問われているのです。

五旬節の時に、聖靈が弟子たちに注がれました。そして、聖靈は私たちの生活に実を結ばせてくださいます。「しかし、御靈の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔軟、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。(ガラテヤ 5:22-23)」キリストが再び戻られた時に、神は私たちの生活から結ばれた実を収穫されます。神がご自身が結ばせた実を収穫するために、私たちを選び、召し出されたことを知る必要があります。

1B 律法の授与

さて、五旬節においてユダヤ人は、シナイ山でモーセによって十戒が与えられたことがお祝いされる日であります。なぜなら、エジプトを脱出してちょうど五十日目に、その律法の授与が行われたからです(出エジプト 19:1 参照)。ですから、ユダヤ人は律法の朗読を五旬節の時に行います。

十戒が与えられた時に、イスラエルの民は「私たちは聞き従います。(出エジプト 20:19)」と応答しました。神の戒めは、神の正しさと聖さ、その良さを表しています。それを聞けば聞くほど、確かにその通りであると同意するものばかりです。しかし、モーセが四十日四十夜、山の上にいて幕屋の型を神から聞いていた時に、ふもとでは金の子牛を造り、イスラエル人たちが乱していました。

このようにして、イスラエルの民は、モーセの律法を守り守り行わない生活が続きました。主は憐れみ深い方であり、彼らが背いても彼らを滅ぼすことはなさいませんでした。しかしついに、主は彼らを、ご自分が植えつけた約束の地から引き抜き、紀元前586年にバビロンに捕え移しました。

2B 新しい契約

バビロン捕囚の直前に、神はエルサレムに預言者エレミヤを立ておられました。そして、神はエレミヤを通して、シナイ山で与えられた律法をイスラエル人がことごとく破っていましたことを教えました。そこで、神が全く異なる方法で、彼らがご自分の揃の中に留まることのできる方法を与える約束をなさいました。エレミヤ書31章31-34節を読みます。

31 見よ。その日が来る。…主の御告げ。…その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。…主の御告げ。…33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。…主の御告げ。…わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしる。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。34 そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。…主の御告げ。…わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

エジプトの国から連れ出した日に結んだ契約とは、彼らが律法を守ることによって主が彼らを祝福するという契約です。それを彼らが破ってしまいました。しかし、彼らの時代の後に、新しく契約を結ばれると約束してくださいます。それが、「わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしる。」というものであります。それまでは、石の板に刻み込まれていました。それを行ないますと誓っても、ことごとく破っていました。しかし今、その揃が心の中に書き記されると言います。石の板から、心の板に記されるというのです。

エレミヤがエルサレムにいた時に、既に捕囚の民としてバビロンにいたエゼキエルという預言者は、同じ新しい契約について預言していました。「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい靈を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの靈をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。(36:26-27)」神の御靈が、心に注がれると言います。そして新しく靈が与えられるとあります。御靈の刷新によって、心が変えられて、それによって神の律法が心の中に刻まれるのです。イスラエル人が律法を守り行えなかったのは、内側が変わっていなかったからです。私たちも、神が命じられることを行なおうとしているのにできないのは、内側の心が変えられていないからです。心をえることは自分にはできません。それをすることができるのには、神の御靈です。

イエス様は、最後の晚餐で「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。(ルカ 22:20)」と言われました。キリストの流される血によって、新しい契約が結ばれました。この血は、律法の要求する死を満たすものでした。「肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。それは、肉に従って歩まず、御靈に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。(ローマ 8:3-4)」律法に違反すれば、死ななければいけません。けれども、イエス様はその肉体に神の処罰を受けてくださいました。そして、神の御靈によってキリストとその十字架の死が私たちの内に適用されたので、律法の要求するところが、私たちの内に全うされるのです。

私たちが神の律法の要求するところを全うするのではなく、キリストにあって私たちの内に全うされました。キリストの死を知ると、そこに御靈が働いてくださいます。御靈は、キリストの流された血潮と共に私たちの心に働いてくださいます。そこから、自分の肉の力では決して行えない神の御心を、御靈に導かれることによって行えるようになるのです。

3B 聖靈降臨

イエス様は、復活されたご自身を弟子たちに現されました。「そして、…彼らに息を吹きかけて言わされた。『聖靈を受けなさい。』(ヨハネ 20:22)」聖靈が、イエス様の息の吹きかけによって弟子たちの内に入られました。そして、イエス様はご自身の証しのために聖靈の力が、上から臨むことを約束されました。「しかし、聖靈があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。(使徒 1:8)」

そして、先ほど交読文で読んだように、弟子たちが一同に祈っている時に聖靈が臨まれました。「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖靈に満たされ、御靈が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。(使徒 2:1-4)」この出来事によって、ペテロが集まっているユダヤ人にキリストを宣べ伝え、その日、三千人の男が水のバプテスマを受けました。イスラエル旅行に行かれた方は、神殿の周囲に数多くのミクバ(浸礼槽)の遺跡があったのを覚えているでしょうか？そこで受けたものと思われます。

2A 二個の種ありパン

こうして教会ができました。教会は聖靈の降臨と共に生まれました。そして、キリストの体は御靈によって存続しつづけます。この体に属したいと願われるなら、御靈が授けられるバプテスマを受ける必要があります。「一つのからだとなるように、一つの御靈によってバプテスマを受け(1コリント 12:13)」そして、教会として自分が神に仕える時、またキリストの効果的な証しを立てるために、

イエスご自身が授けられる聖靈のバプテスマを受けなければいけません。「聖靈があなたがたの上に臨まれるときに、あなたがたは力を受けます。」どうか、聖靈のバプテスマを受けてください。内におられる聖靈が、腹から生ける水として、ほとばしり出てくるような体験です。これを、イエスを信じる者に与えると主は約束してくださいました。

1B 罪ある体

それでは本文に戻ってください。五旬節は、収穫祭であることをお話ししました。それは小麦の初穂をパンにして神に捧げるというのが特徴です。17 節に、「あなたがたの住まいから、奉獻物としてパン…主への初穂として、十分のニエバの小麦粉にパン種を入れて焼かれるもの…二個を持って来なければならない。」とあります。ここで、非常に興味深いことはパン種、すなわちイースト菌が入ったパンを主の前に捧げていることです。これは、その前に、過越の祭りと共に始まる、種無しパンの祝いを考えると、違和感を抱きます。種無しパンの祝いにおいては、パン種を一切取り除かなければいけないという厳しい戒めがありました。(私たちが聖餐式の時に食べる、あのクラッカーのようなパンは、種無しパンです。)

パン種は、新約聖書によると罪を示しています(1コリント 5:6-8)。ですから、種無しパンの祝いにおいては、キリストが流された血によって、一切の罪が取り除かれたことを示すため、パン種があつてはならなかったのでした。ところが、ここでは種を入れたパンを主の前に捧げます。なぜか?教会というのは、まだ罪ある者たちが集まっていることを示しているからです。キリストが戻つてこられて私たちの古い体が新しい栄光の体に変えられるまでは、私たちはアダムから受け継いだ体の中に住んでいます。

ここで大事なのは、教会の性質を知ることです。私たちが教会の礼拝に通う時に、その教会が健全な教えをしているのか、何が整っているのか、また自分の信じていることや趣向にあっているのか、そうやって教会を選んで通うものだと思っていたら、大きな間違いを犯しています。なぜなら、神は教会を完璧なものとして造られていないからです。教会は正しい者たちの集まりではありません。教会は、愛する者たちの集まりです。「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハネ 13:34)」キリストが愛されたように、互いに愛しなさいと命じられています。キリストの愛はどこに現れていますか?私たちが罪人なのに、それにも拘らずそのまま受け入れ、愛してくださったその愛です。そしてその聖い愛によって、私たちは悔い改めに導かれます。

ですから、教会において正しさを求めたら、必ずつまずきます。教会においては、キリストが自分を愛してくださったという確信が与えられているかどうかが第一前提です。そして、次も大事です。教会においては、他の兄弟姉妹からキリストに愛を受け取っているかどうかであります。キリストが他の兄弟姉妹から現れ、そして自分自身も御体の一部として兄弟たちを愛していくのです。この流れの中に自分が教会において感じているのならば、自分はこの教会に導かれた、ということに

なります。自分で選ぶものではなく、神に導かれ、選ばれるところが教会なのです。

使徒ペテロは、万物の終わりが近づいていると言いました。終末が近づいています。まず初めに何をしなさいと勧めていると思いますか。「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。(1ペテロ 4:7-8)」熱心に愛し合うのです。そして、愛とは多くの罪をおおうものであるとあります。これが、主イエスが戻ってこられるのが間近だから行ないなさいと命じているのです。そして、祈るために身を慎みなさいとあります。祈りが、私たちに熱い兄弟愛を抱かせます。互いに祈ってください。私たちの教会では土曜日に祈り会を持っています。教会のために祈ることは、教会に対するキリストの愛に満たされることであります。

2B 近づけられた者たち

そしてもう一つ、17 節にはパンを二個、主に捧げるとあります。なぜ二個なのか？五旬節が、聖霊降臨と教会の誕生を表していることを考えると、興味深い推測ができます。エペソ 2 章 13-15 節をお読みします。「しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にありますことにより、キリストの血によって近い者とされたのです。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、(エペソ 2:13-15)」こここの二つとは、ユダヤ人と異邦人のことです。キリストの体において、ユダヤ人も異邦人の一つとなることを、この二個のパンは教えているのかもしれません。

異邦人は、元来イスラエルの宗教であった旧約聖書における約束から、遠く離れていました。けれども、キリスト・イエスによって神に大胆に近づくことのできる、近い者となりました。そしてユダヤ人と共に一つの体となりました。つまり、聖霊によって生まれた教会は、キリストにあって心を開くところです。自分とは異なる背景を持っている人に、キリストにあって心を開くところです。キリストにあって届き、キリストを分かち合うところです。そこには、必ず受容があります。キリストにある受け入れがあります。そこに愛による結びつき、一致があるのです。キリストにあって近づくのです。

どうか、この聖霊の働きに皆さんのが導かれますように。私たちは神の畠です、そして神は聖霊の実を私たちから結ばせることを願っておられます。そして、私たちには肉の弱さでできなくなっていることを、キリストが流された血によって、御霊によってできるようになりました。私たちにはまだ罪があるとしても、だからこそ互いに愛し合い、赦し合い、仕え合うという教会の意義があります。そして、キリストにあって心を開いて、一つとなるのです。

1A 収穫の祭り

主は、収穫を捧げる祭りを定められた。収穫は、もっぱら主にのみ頼らなければいけない。教会は、神が成長させてくださる畠である。

1B 律法の授与

律法によって、イスラエルの民は「これらすべてのことを行ないます」と言ったが、ことごとく破つてしまつた。

2B 新しい契約

律法は、石の板ではなく心に書き記される エレミヤ
御靈によって肉の心に変えられる エゼキエル
ローマ 8 章 律法の要求が、御靈に導かれる私たちの内に成就する。

3B 聖靈降臨

ヨハネ 20 章にて、弟子たちは聖靈を吹きかけられ、聖靈が内住した。そして使徒 2 章にて聖靈が上から臨まれ、教会が誕生した。

2A 二個の種ありパン

1B 罪ある体

罪の性質を持った者たちが集まっているところ。愛し合うことよつて罪を覆う。

2B 近づけられた者たち

二つのパンは、異邦人とユダヤ人が一つになったことを示す。したがつて、遠く離れていた者が近づいたことを示す。教会が人々に届いているか？